

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【本太中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	全国学力・学習状況調査や市学習状況調査の結果から、一定の成果が表れていると言える。年度当初より、学習するツールとしての個別学習アプリの日々の授業や家庭学習でのより効果的な活用について研究に取り組む。	
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査や市学習状況調査の結果から、UDLの視点をもった授業展開について一定の成果が表れていると言える。次年度は、今年度研究した事項を生かし、教員が自身の授業を見直し、改善を図ることができるよう、教員自身が研究課題を立て、実践する。そして、生徒の学力向上に取り組んでいく。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> どの教科においても、生徒の学力に大きな差が見られる。</p> <p><指導上の課題> 生徒自身が、何を理解できていて、何を理解できていないのかを確認する振り返りの時間の設定が少ない。</p>	⇒ 授業の中でその授業ごと、単元ごとの振り返りの時間を設定する。【授業ごと、単元ごと】 家庭学習の質の向上のために、「スタディサプリ」「ドリルパーク」などの学習アプリを適切に活用できるようにする。(毎日)
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> グループでの学習活動において、他の生徒から取り残されてしまい、学習が進まない生徒がいる。</p> <p><指導上の課題> 生徒一人ひとりが学びたい内容を学ぶことができる場の設定が不十分である。</p>	⇒ 各教科において、生徒自身が目標を立て、学習を進めていくコンピテンシーベースの授業を実施する。【通年】 学校課題研修の一環として、指導者を招聘した研究授業を実施する。【2学期】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	結果分析(管理職・学年主任等)	授業や家庭学習、長期休業の課題等において、個別学習アプリの活用に取り組んだが、日々の授業や家庭学習における活用は十分ではなかった。基礎基本の充実という点では、各教員が授業において、生徒自身が課題や学び方法等を決定する個別学習の時間を設けることで、その効果が表れ始めた。
思考・判断・表現	B	職員会議・校内研修等	学校課題研究の中で、UDLを意識した授業展開について研究を進めた。生徒が自身で課題や学び方等を学び、思考し、表現する授業展開の実施回数を増やす取組を行った結果、学び方や人数を生徒自身が決め、自分に合った学び方で学ぶ機会を授業の中に取り入れる研究を進めた結果、教員の授業展開に変化が見られるようになった。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	R7全国学力・学習状況調査において、全国平均と比較し、国語、数学ともに平均を上回るよい結果となっている。特に数学については、ほとんどの問題において10%以上平均を上回っており、生徒の学力向上が見られる。課題としては、国語において、思考・判断・表現と比較して、知識・技能の観点に関わる問題の正答率が低くなっている。また、全国平均と比較して、上回っているものの、差が小さい。今後、課題のより深い分析とともに、指導法について研修等で検討し、改善を図ってきたい。	
思考・判断・表現	R7全国学力・学習状況調査において、全国平均と比較し、国語、数学ともに非常によい結果となっている。特に、数学の正答率においては、思考・判断・表現に係る全ての問題で全国平均を10%以上上回っている。一方で、全国平均同様、記述式の問題について、国語、数学ともに正答率が他の問題と比較し、低くなっている。論理的に説明をすることに課題が見られるため、改善を図りたい。	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	令和7年度さいたま市学習状況調査において、市の結果と比較して、全ての教科の「知識・技能」で平均を上回ることができた。教科、学年によっては平均を10pt以上上回るものもあり、授業で学んだ知識が生徒の自主学習により深められ、しっかりと定着していることがうかがえる。ただし、教科によって市平均正答率との差が小さい教科があり、今後、各教科ごとに本校生徒の傾向を分析し、指導に生かす。	
思考・判断・表現	令和7年度さいたま市学習状況調査において、市の結果と比較して、全ての教科の「思考・判断・表現」で平均を上回ることができた。「知識・技能」と同様、教科、学年によっては市平均と比較して、10pt以上上回るものもあった。一方で、「知識・理解」と比較し、「思考・判断・表現」の方が市平均正答率との差が小さい傾向がある。今後のさらなる研究をとおして、授業の中で、課題に対して思考し、判断する力や、自身の考えを表現する力をつけさせる指導法について、研究してきたい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	単元ごと、授業ごとの振り返りについて、学校課題研究の懸念の一つとして、研究推進委員会を中心に研究を進めている。教員間で授業を見合う取組を1学期に実施し、2学期以降も実施する予定である。	1学期に出た課題を改善するために、教員間で授業参観し合う「授業参観Weeks」を2学期に実施する。(1カ月間程度) 校内研究授業を3学期に実施する。
思考・判断・表現	B	各教科において、「個別最適な学び」、「協働的な学び」のさらなる実現に向け、研究推進委員会を中心に、主体的な研究が進められている。その成果としてこれまでの実践を土台にしながら、新たな視点や工夫を取り入れた授業づくりに取り組む教員が増えている。	1学期に出た課題を改善するために、教員間で授業参観し合う「授業参観Weeks」を2学期に実施する。(1カ月間程度) 校内研究授業を3学期に実施する。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)